

韓国の鯨事情 現地報告とネット情報

宇仁義和

この数年、韓国で写真展の手伝いや歴史調査をする機会がありました。インターネットには日本語や英語の情報が少ないのに対し、고래 (鯨) で検索すれば様々な記事やブログ、写真が集まります。Google 翻訳の助けを借りて、ネット情報を含めて韓国のクジラやイルカ的话题を紹介します。

黄海捕鯨の記憶

かつて黄海には東洋捕鯨の事業場が3か所ありました。北から順に、海洋島、大青島、大黒山島の3つの島です。その中で、操業の中心であった大黒山島(黒山島 흑산도 Heuksando フクサンド)を訪れました。木浦(목포 Mokpo モッポ)から高速船で2時間弱で到着、あらかじめ特定しておいた事業場跡地は船着き場から徒歩20分。行くと、そこは鯨公園になっていました(写真1)。公園は整備途上のままだようですが、中心に黄金のクジラの像が置かれ、そのまわりには種類ごとに解説板が据えられています。そして戦後操業した韓国の捕鯨船とナガスクジラを陸揚げした写真もありました。大黒山島では捕鯨は戦後も継続したため、現在でも捕鯨基地として記憶されているのです。

高速船の乗り場近くの郷土資料館にも捕鯨の写真が展示されていました。こちらも戦後のナガスクジラ捕鯨の様子です。鯨公園や資料館を含め、大黒山島の写真はこの韓国語のブログでたくさん見られます(<http://blog.daum.net/leejin2010/776>)。

セミクジラの出現

日本列島のあちらこちらで鯨類の突発的な出没が見られるなか、北海道の知床では2013年にはセミクジラの遊泳が見られました。翌14年6月には北海道東部太平洋側の浜中町でセミクジラの上顎のみが漂着(M-1981)、そして韓国でも2015年2月に観察がありました(http://app.yonhapnews.co.kr/YNA/Basic/ForeignGallery/view.aspx?lang=EN&contents_id=PYH20150212083900315, 写真2)。場所は朝鮮半島南岸中央部に位置する南海(남해 Namhae ナムヘ)郡で2月11日のことでした(地図)。

蔚山にある国立水産科学院の鯨類研究所(고래연구



写真1. 鯨公園になっている東洋捕鯨事業場跡地(大黒山島)

소 2015年10月から고래연구센터 Cetacean Research Institute)のキム博士(김현우, Kim HyunWoo)によると、セミクジラが見つかったのは朝10時過ぎのこと。ムール貝を海面養殖している棚に絡んでいる状態で、全長13mほどのオス未成獣のようだったといいます。そして釜山水族館 Sealife Busan Aqualium のレスキューチームによって救助が開始、しぶる養殖場主を説得し、尾柄に絡みついたロープを切断する了承を取り付けたものの、太さ30mmのロープは何重にも深く食い込んでおり、潜水チームも出動しての作業となったそうです。作業が終わったのは午後8時、クジラが暴れ出したため最後の一巻きは切れませんでした。翌日、このクジラは姿を消していました。近くの海を船とヘリコプタで2時間以上探しても見つからなかったことから、おそらく最後のロープは自力で切断し、脱出に成功したものと考えられています。

韓国でセミクジラが観察されたのは、1974年に捕獲された1頭が最後でしたので、実に41年ぶりの観察となったのでした(Kim, H.W. et al. 2015. Entanglement of North Pacific right whale (*Eubalaena japonica*) off Korean waters. SC/66a/HIM/15)。

アンドリュースの写真展

蔚山は現代グループが本拠地を置く工業都市ですが、アジアでは最初の近代捕鯨の基地となった場所です。戦後も捕鯨基地として栄え、現在も韓国唯一の鯨を主題にした長生浦鯨博物館(장생포고래박물관 Jangsaengpo Whale Museum)、そしてイルカを飼育する鯨生態体験館があり、近くには鯨文化村というテーマパークもあって鯨は町のシンボルです。この博物館では、昨年に引き続き、今年もロイ・チャップマン・アンドリュースが撮影した写真の企画展示が行われています(写真3)。昨年は1912年の蔚山でのクジラ調査と朝鮮探検の写真、今年は1910年の日本滞在と鮎川や紀伊大島での調査の写真を特集し、それぞれ数百枚の写真を載せた図録も発行されました(写真4)。関係機関への配布のみとなつ

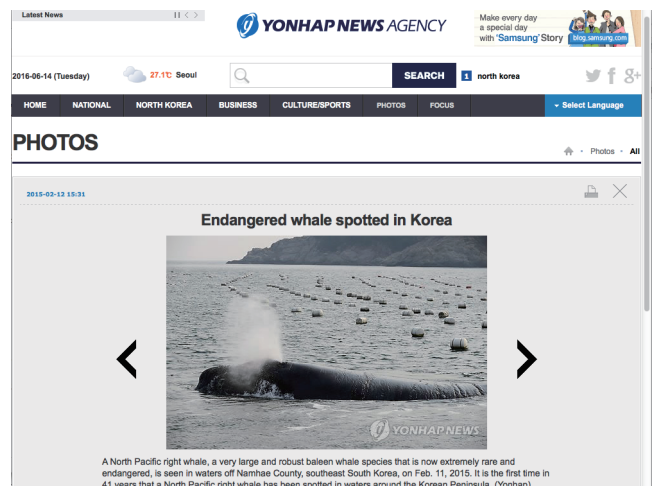


写真2. 南海郡のセミクジラを伝えるウェブページ(聯合ニュース)



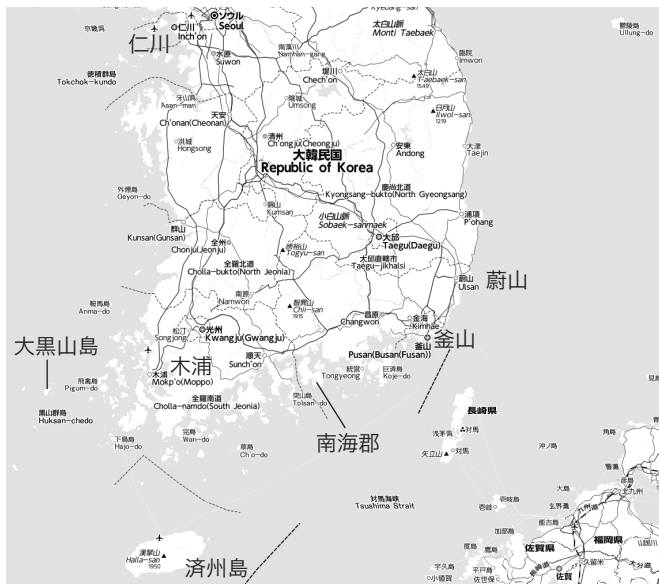
左：写真3. 今年のアンドリュースの写真展（長生浦鯨博物館提供）
右：写真4. 去年（左）と今年（右）の写真展の図録

ていますが、昨年の図録は北海道大学水産学部図書館に寄贈されています。今年の図録はこれから寄贈し、また国立国会図書館へ2冊合わせて納本する予定です。

長生浦鯨博物館や鯨生態体験館はこちらのサイトが詳しいほか（<http://tourkorealove.tistory.com/169>），蔚山の鯨料理の写真満載のブログもあります（<http://blog.ohmynews.com/cornerstone/158270>）。

スナメリとミンククジラの混獲

韓国は日本と同様に鯨類の混獲が多く、それが食用に流通している状態にあります。多くはミンククジラとスナメリで、意図的な捕獲ではないかと問題視されているようです。日本語の記事ではハンギョレ新聞の「[現地ルポ] 混獲を口実に続けられる蔚山の捕鯨」が写真も豊富でまとまっています（<http://www.hani.co.kr/arti/society/area/697888.html>）。スナメリについては聯合ニュースが2008年に「仁川海域で地元クジラ混獲急増」という記事を出し、海洋警察庁によると1-9月に仁川海域で混獲された鯨類は1377頭で、そのほとんどがスナメリと伝えています。20頭近い大きささまざまな新鮮な死体が山と積まれた写真が衝撃的です（http://www.yonhapnews.co.kr/local/2012/10/25/0804000000A_KR20121025034700065.HTML 写真5）。記事には、混獲の鯨は海洋警察署に申告すれば合法的に流通可能、海警は故



地図 Yahoo 地図（モノトーン）に加筆

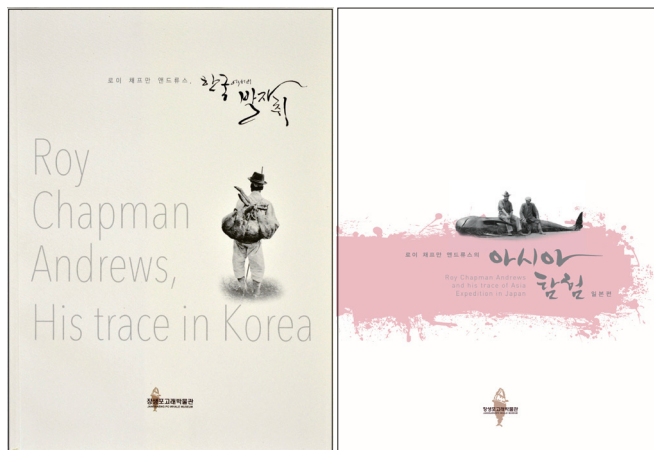


写真5. 仁川海域で混獲された多くのスナメリ（聯合ニュース）

意の捕獲かどうか判別するため、金属探知機を使って体内の銆の有無を調べるとあります。しかしながら、この方法で意図的な捕獲かどうかを判断できるのか疑問です。

ミンククジラに関してはMoneyWeek 2015年10月30日の記事がありました。6-8月に東海岸で漁船を使ってミンククジラ24頭を密猟し釜山や蔚山の鯨料理店に販売した疑いで逮捕者が出たと報じています。販売価格は1頭当たり平均2000-4000万、レストランでは8000万ウォンで取引されたと警察は見ているとしています（<http://www.moneyweek.co.kr/news/mwView.php?no=2015103014468019724>）。

イルカの野生放獣

その一方で、飼育個体の野生復帰を実践しているのも韓国です。ソウルの動物園や済州島の水族館で飼育されていたミナミハンドウイルカを海に放したのです。今年4月には放獣された個体が幼獣を連れている様子が観察され、日本語の記事でも報じられています（<http://japan.hani.co.kr/arti/culture/23903.html>）。飼育下にあった個体を海に放すことは賛否があると思いますが、新たな試みであることは間違いないでしょう。

言葉の壁のため、情報が得にくい韓国ですが、日本同様の課題があり、先を行く実験が実現しています。他方、スタンディング対応を含め鯨類の調査研究は不十分で、骨格標本の作製も不足していると聞きます。幅広い分野で情報交換や協力体制が構築されることが望まれます。

（うに・よしかず 東京農業大学）